

AlphaTheta

DVS セットアップガイド



もくじ

1	ご使用の前に	1
1.1	はじめに	1
1.2	DVS の概要	1
1.3	必要機材	2
1.4	動作環境	2
2	アプリケーションを準備する	3
3	機器をセッティングする	6
3.1	ミキサーまたはコントローラーとの接続例	6
3.2	オーディオインターフェースとの接続例	7
3.3	Phase との接続例 (HID 接続)	8
4	rekordbox で DVS の設定を行う	10
4.1	DVS 機能を有効にする	11
4.2	ルーティング設定	13
4.3	コントロール信号設定	15
4.4	波形表示	18
4.5	Control Vinyl	18

1 ご使用の前に

1.1 はじめに

このセットアップガイドでは DVS について説明しています。rekordbox 全般については、rekordbox 操作説明書をご参照ください。

rekordbox 操作説明書 rekordbox.com/ja/download/#manual

1.2 DVS の概要

ターンテーブル、専用 Control Vinyl、DVS*対応 DJ 機器をご使用いただくと、ターンテーブルの操作で rekordbox の DECK をコントロールできるようになります。

*DVS...Digital Vinyl System



ターンテーブルを使って DJ アプリケーションの DECK をコントロールできます。再生方向、テンポ、スクラッチ操作、再生位置が、DJ アプリケーションの DECK に Load されている楽曲に反映されます。

1.3 必要機材

DVS には以下の機材が必要になります。

- ・ **コンピューター**

動作環境は 1.4 コンピューターの動作環境 をご参照ください。

- ・ **ターンテーブル（または CDJ/XDJ）**

ターンテーブルの推奨機器：

PLX-CROSS12

PLX-1000

PLX-500

- ・ **レコード（CDJ/XDJ をご使用の場合はコントロール信号の WAV ファイル）**

rekordbox 専用レコード：

RB-VS1-K

AlphaTheta 製以外の Control Vinyl やコントロール信号 WAV データは動作保障対象外になります。AlphaTheta 製以外は再生位置がずれるなど正しく動作しません。

CDJ/XDJ をご使用の場合：

rekordbox DVS Control 専用のコントロール信号 WAV ファイルを Web からダウンロードしてください。

rekordbox.com/ja/support/faq/dvs-7/

[マルチプレーヤー（CDJ、XDJ）で DVS 機能を使用するにはどうすればよいですか？] >

rekordbox_Control_Signal.zip をクリックするとコントロール信号をダウンロードできます。

zip ファイルを解凍して、CD や USB メモリなどのメディアでお使いください。

- ・ **DVS 対応 DJ 機器**

DVS 対応機器につきましては rekordbox.com/ja/support/link/ をご参照ください。

1.4 動作環境

rekordbox の最新情報（対応 OS や動作環境など）については、rekordbox サイトをご覧ください。

rekordbox.com/ja/download/#system

2 アプリケーションを準備する

DVS 機能は、以下のいずれかの方法でご利用いただけます。

* rekordbox をはじめて起動する場合は AlphaTheta アカウント登録が必要になります。

AlphaTheta アカウント登録につきましては rekordbox イン트로ダクション をご参照ください。

① Professional プラン / Creative プラン / Core プラン で DVS 機能を使用する

いずれかのサブスクリプションプランにご契約いただくと DVS の設定を有効にすることで DVS 機能を使用することができます。

ご契約中のプランは画面右上に表示されます。

プランの詳細につきましてはプランページ (rekordbox.com/ja/plan/) または、

FAQ (rekordbox.com/ja/support/faq/plans-7/) をご覧ください。

rekordbox の環境設定で DVS 機能を有効にする

- ・ [環境設定] > [DVS] カテゴリ の [DVS 機能を有効にする] をオンに設定してください。



② Free プランで DVS 機能を使用する

プランに契約していなくても A, B いずれかの方法で DVS 機能をご利用いただけます。

A. Hardware Unlock 対象の DVS 対応 DJ 機器を使用する

STEP1. Hardware Unlock 対象の DVS 対応 DJ 機器を接続する

- ・ rekordbox.com の Hardware Unlock ページで DVS コントロールに対応している DJ 機器と接続します。

Hardware Unlock ページ rekordbox.com/ja/support/hardware-unlock/

STEP2. rekordbox の環境設定で DVS 機能を有効にする

- ・ [環境設定] > [DVS] カテゴリ の [DVS 機能を有効にする] をオンに設定してください。



B. Trial を開始する

rekordbox のインストール後、TRIAL を開始すると 30 日間は DVS 機能を含む rekordbox の全機能をご試用いただけます。（TRIAL 期間を過ぎるとご使用できなくなります。）

STEP1. rekordbox を起動し、30 日間無料 画面で [OK] をクリックします。



TRIAL が開始され、rekordbox（PERFORMANCE モード）と DVS 機能が使用できるようになります。

STEP2. rekordbox の環境設定で DVS 機能を有効にする

- ・ [環境設定] > [DVS] カテゴリ の [DVS 機能を有効にする] をオンに設定してください。



3 機器をセッティングする

3.1 ミキサーまたはコントローラーとの接続例



- ・ コンピューターとミキサー（またはコントローラー）を USB ケーブルで接続します。
- ・ ターンテーブル（または CDJ/XDJ）とミキサー（またはコントローラー）をオーディオケーブルで接続します。

ターンテーブルをお使いの場合：

ミキサー（またはコントローラー）のインプットセクターに[PHONO]または[PHONO/LINE]がある CH に接続してください。ターンテーブルのアース線は必ずミキサーの SIGNAL GND に接続してください。

CDJ/XDJ をお使いの場合：

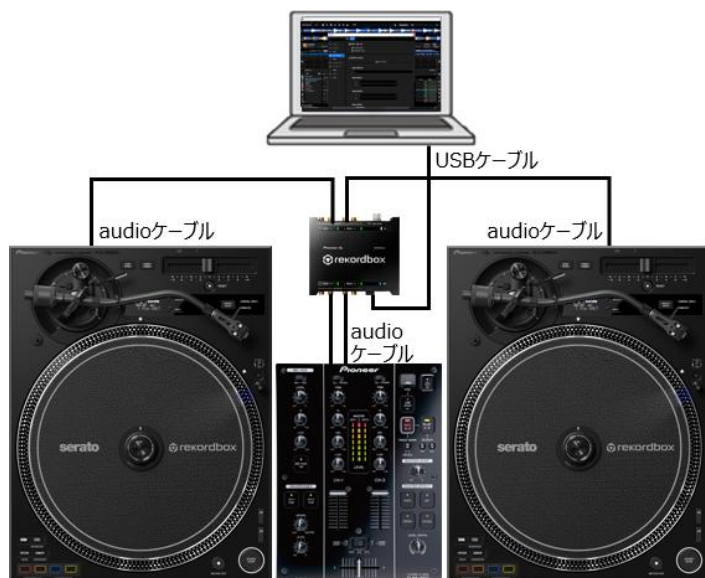
ミキサー（またはコントローラー）のインプットセクターに[CD/LINE]、[LINE]、または [PHONO/LINE]がある CH に接続してください。

- ・ ターンテーブル（または CDJ/XDJ）を接続しているミキサー（またはコントローラー）の CH のインプットセクターを[USB-A]または[USB-B]、[USB]、[PC]、[ [DECK 1-4]など rekordbox が接続されているコンピューターの位置に設定します。

- ・ ターンテーブルに AlphaTheata 製レコード（RB-VS1-K）をセッティングします。

CDJ/XDJ をご使用の場合は、rekordbox Control Signal.wav*を入れた CD-R、USB メモリなどのメディアを CDJ/XDJ に挿入します。（*...詳細は 1.3 を参照ください。）

3.2 オーディオインターフェースとの接続例



- ・コンピュータとオーディオインターフェースを USB ケーブルで接続します。
- ・ターンテーブル（または CDJ/XDJ）とオーディオインターフェースをオーディオケーブルで接続します。

ターンテーブルをお使いの場合：

オーディオインターフェースの INPUT SELECT スイッチを[PHONO]に設定した状態で、INPUT 端子に接続してください。ターンテーブルのアース線は必ずオーディオインターフェースの SIGNAL GND に接続してください。

CDJ/XDJ をお使いの場合：

オーディオインターフェースの INPUT SELECT スイッチを[LINE]に設定した状態で、INPUT 端子に接続してください。

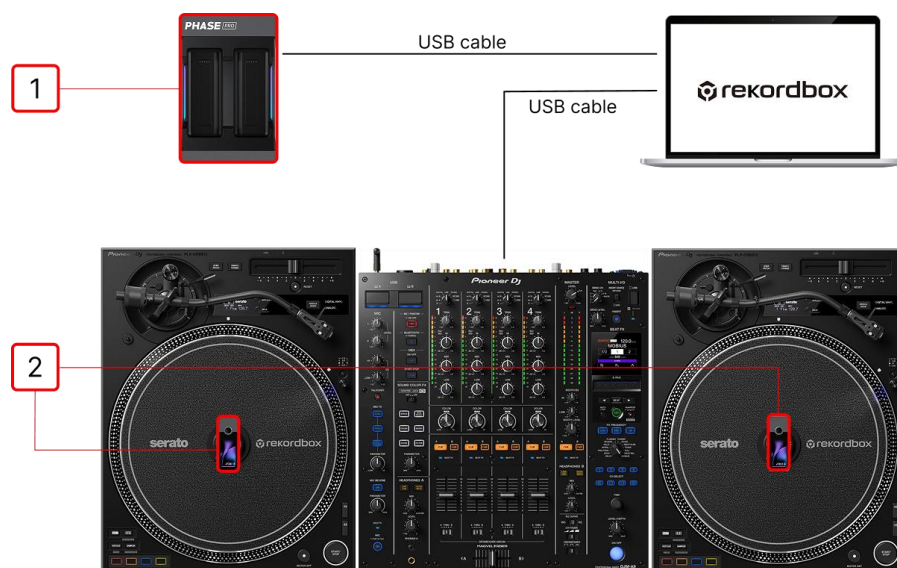
- ・オーディオインターフェースの OUTPUT 端子とミキサーの CD/LINE 端子を音声ケーブルで接続します。
- ・ターンテーブルに AlphaTheata 製レコード（RB-VS1-K）をセッティングします。

CDJ/XDJ をご使用の場合は、rekordbox Control Signal.wav を入れた CD-R、USB メモリなどのメディアを CDJ/XDJ に挿入します。（*...詳細は 1.3 を参照ください。）

3.3 Phase との接続例（HID）

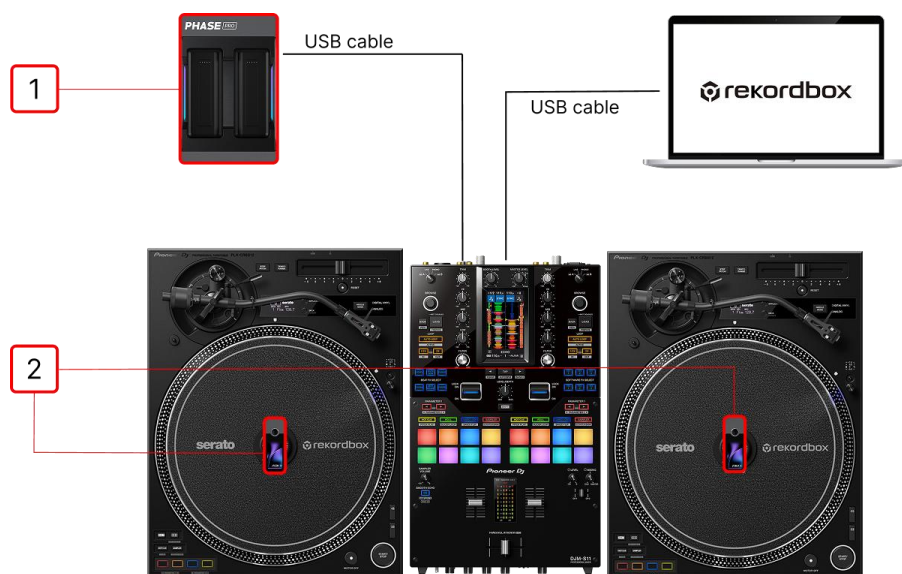
[1] Phase レシーバー（Receiver）

[2] Phase リモート（Remotes）



- ・コンピューターとミキサー（またはコントローラー）を USB ケーブルで接続します。
- ・コンピューターと Phase レシーバー（Receiver）を USB ケーブルで接続します。
- ・ミキサー（またはコントローラー）の任意の CH のインプットセクターを[USB-A]または[USB-B]、[USB]、[PC]、[ DECK 1-4]など rekordbox が接続されているコンピューターの位置に設定します。
- ・ターンテーブルに Phase リモート（Remotes）をセッティングします。

*CDJ/CONTROLLER 端子を搭載したミキサーでは、Phase レシーバー（Receiver）を CDJ/CONTROLLER 端子に USB ケーブルで下図のように接続することが可能です。



4 rekordbox で DVS の設定を行う

rekordbox (PERFORMANCE モード) の[環境設定] > [DVS]カテゴリで以下の設定を行います。

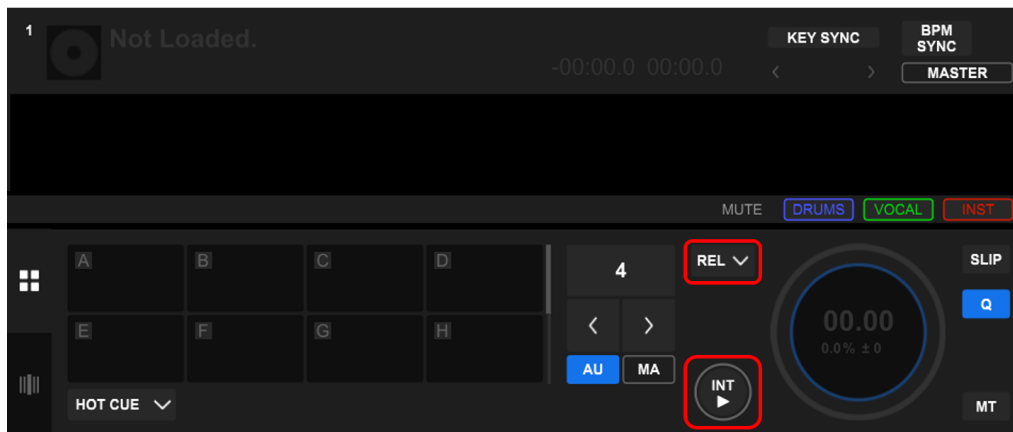
- [1] DVS 機能を有効にする
- [2] ルーティング設定
- [3] コントロール信号設定
- [4] 波形表示
- [5] Control Vinyl



4.1 DVS 機能を有効にする



[DVS 機能を有効にする]をオンに設定すると、各 DECK は DVS モードに切り替わります。



DVS モードには ABSOLUTE、RELATIVE、INTERNAL の3 種類があります。

さらに

- ・ WIRELESS モード（Phase 使用時）
- ・ THROUGH モード（オーディオインターフェイス使用時）

があります。

REL をクリックするとメニューの中から選択できます。

ABS ...ABSOLUTE モード

- ・ ターンテーブルの針の位置が rekordbox の DECK の再生位置に反映されます。
 - ・ ターンテーブルの再生方向、テンポ、バイナルの操作が DECK 再生に反映されます。
- また Hot Cue やニードルサーチなど楽曲の位置が変わる機能が無効になります。

* P.12 の DVS モード別機能制限一覧をご参照ください。

REL ...RELATIVE モード

- ・ ターンテーブルの針の位置を rekordbox の DECK の再生位置に反映しません。
- ・ ターンテーブルの再生方向、テンポ、バイナルの操作は DECK 再生に反映されます。

*P.12 の DVS モード別機能制限一覧をご参照ください。

INT ...INTERNAL モード

- ・ターンテーブルの針の位置、再生方向、テンポ、バイナルの操作が DECK 再生に反映されなくなります。

WIR ...WIRELESS モード(Phase 使用時のみ表示されます。)

- ・ Phase は、針や control vinyl を使わずにターンテーブルの回転、方向の情報をワイヤレス送信して、その情報を rekordbox の DECK 上の再生位置に反映します。
- ・ WIRELESS モードでは、A および B を任意のデッキにそれぞれ設定できます。(最大 2 デッキまで)
- ・ 子機のバッテリー残量が 5%になると、自動的に INTERNAL モードに切り替わります。

*P.12 の DVS モード別機能制限一覧をご参照ください。

- ・ DECK 機能は制限無く使用できます。

THR ...THROUGH モード (INTERFACE 2 使用時のみ表示されます。)

- ・ ターンテーブルからオーディオインターフェースへ入力した音声をそのまま OUTPUT 端子へ出力します。
- ・ DECK は停止します。



...INTERNAL モード以外のときに表示されます。

クリックすると INTERNAL モードに切り替わります。

ABSOLUTE モードでお使いの際に、レコードの再生位置が終了間際になった場合など、一時的に INTERNAL モードに切り換えたいときに使用します。

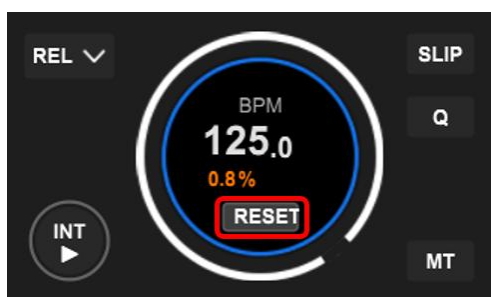
DVS モード別 DECK 機能制限一覧

DECK 機能	ABSOLUTE モード	WIRELESS/RELATIVE モード
PLAY/PAUSE	×	×
CUE	×	×
AUTO BEAT LOOP	×	○
LOOP IN / OUT	×	○
QUANTIZE	×	○
SLIP	×	○
TEMPO SLIDER	× *1	× *1
TEMPO RANGE	× *1	× *1
BPM SYNC	×	○ *2
NEEDLE SEARCH	×	○
PAD / GRID Panel	×	○

*1...テンポコントロールはターンテーブル（または CDJ/XDJ）の TEMPO SLIDER、TEMPO RANGE 切り替えで行えます。

*2...RELATIVE モード DECK での BPM SYNC 機能は以下の動作となります。

- ・同期したい DECK の[BPM SYNC]をクリックする。
→Master DECK の BPM に同期します。（グリッドは同期しません。）
- ・ Master DECK のテンポを TEMPO SLIDER で変更する。
→[BPM SYNC] ON の DECK は、Master DECK の BPM に追従します。
Master DECK 以外の DECK でテンポを変えた場合、その DECK のみ BPM が変わります。
- ・同期を解除するには、再度[BPM SYNC]をクリックする。
→BPM は直前の値を継続します。
BPM をターンテーブル（または CDJ/XDJ）の TEMPO SLIDER で調整した値に戻すには、[RESET]*をクリックします。（*2DECK/4DECK HORIZONTAL では[R]と表示されます。）
[RESET]はバーチャルデッキ内をマウスオーバーすると表示されます。



4.2 ルーティング設定

本設定は DVS 対応機器(*1)の場合に表示されます。その他の機器では表示されません。

(*1)...DVS 対応機器 (rekordbox.com/ja/support/link)

DVS を使用するには[環境設定] > [オーディオ]カテゴリ > [入出力]タブの以下の 3 つの設定を行う必要があります。

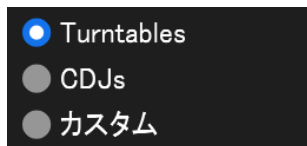
- ① [入力チャンネル]
- ② ハードウェアの[設定ユーティリティ] > [MIXER OUTPUT] の出力設定
(ご使用の DJ 機器によっては不要となります)
- ③ [出力チャンネル]

本設定はこれら 3 つの設定を簡単に行うことができたようにしたものです。

設定した結果は上記①～③に反映されます。

また本設定では2台のターンテーブル（または2台のCDJ/XDJ）でDVSを行う際のみ使用できます。それ以外のケースでお使いの場合は[環境設定] > [オーディオ]カテゴリにて上記①～③の設定を行ってください。

・コントロールハードウェア



DJ プレーヤーの種類を選択します。

- ・2台のターンテーブルを使用する場合は[Turntables]を選択します。

→コンピューターへの入力が Control tone PHONO になります。

- ・2台のCDJ/XDJを使用する場合は[CDJs]を選択します。

→コンピューターへの入力が Control tone CD/LINE になります。

- ・これら以外のケースの場合は[カスタム]を選択します。

[カスタム]を選択した場合は[環境設定] > [オーディオ]カテゴリにて上記①～③の設定を行ってください。

・オーディオルーティング



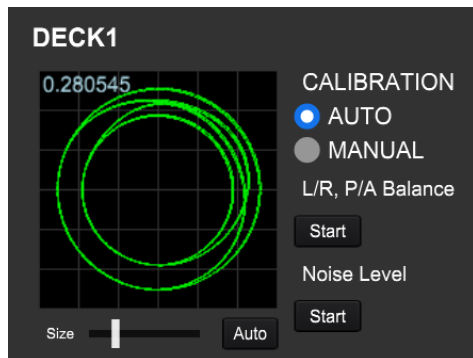
rekordbox の入出力チャンネルの設定状態を表示します。また変更もできます。

結線状態を変更するには結線されている CH 番号の上にある●をクリックして結線を左右の CH 番号の●へ移動します。2台のターンテーブル（または2台のCDJ/XDJ）が接続されている rekordbox のDVS対応DJ機器のCH番号に合わせてください。

→結線状態は[環境設定] > [オーディオ]カテゴリ > [入出力]タブの[入力チャンネル]と[出力チャンネル]に反映されます。

4.3 コントロール信号設定

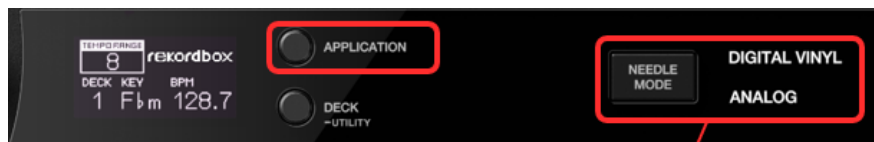
ターンテーブルから rekordbox に入力されるコントロール信号の校正を行います。



コントロール信号は2重の円形で表示されます。（左上の数字は信号の強度を表します。）

校正を行わないとターンテーブルでの再生やスクラッチが正常動作しない場合がありますので、ターンテーブルでコントロールする DECK ごとに必ず 1 度校正を行ってください。

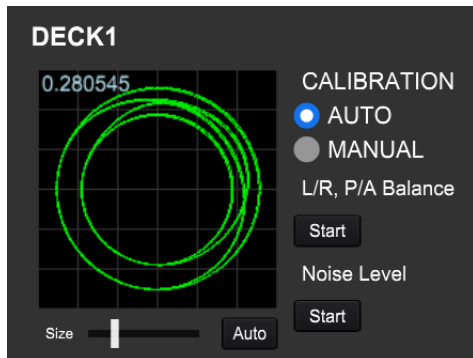
PLX-CRSS12 を使用する場合は、ANALOG モードで rekordbox コントロールバイナルを再生または DIGITAL VINYL モードで[APPLICATION] > rekordbox を選択して[START/STOP] ボタンを押します。



DIGITAL VINYLモード：
アナログレコードやトーンアームを使用せずにDVSを使用する
ANALOGモード：
アナログレコード(コントロールバイナル)を再生

コントロール信号の校正には自動（[AUTO]）と手動（[MANUAL]）の2通りの方法があります。
[AUTO]で調整後、ターンテーブルを再生、スクラッチして DECK の再生動作が安定しない場合は [MANUAL]で調整してください。

・ [AUTO]



STEP1. コントロール信号を調整します。

ターンテーブルを再生して L/R, P/A Balance の[Start]をクリックしてください。

校正が終わると[Start]ボタンの上側に「Complete」と表示されます。

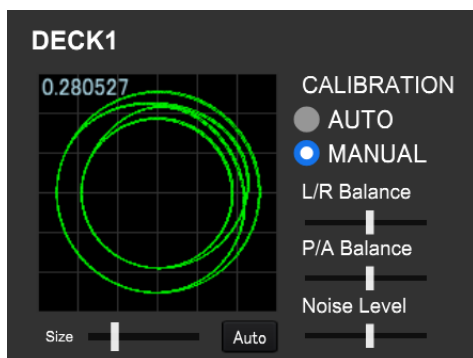
コントロール信号が真円に近い形状になれば正しく調整されています。

STEP2. ターンテーブルの振動によって発生するノイズを計測し、コントロール信号を読み取るスレッシュホルドを調整します。

ターンテーブルの再生を止めた状態で rekordbox の DECK を[INT]に切り替えて DECK を再生し、スピーカーから音を出した状態で Noise Level の[Start]をクリックしてください。

校正が終わると[Start]ボタンの上側に「Complete」と表示されます。

・ [MANUAL]



STEP1. コントロール信号（L/R Balance、P/A Balance）を調整します。

ターンテーブルを再生し、L/R Balance と P/A Balance のスライダーを動かしてコントロール信号が真円になるように調整します。

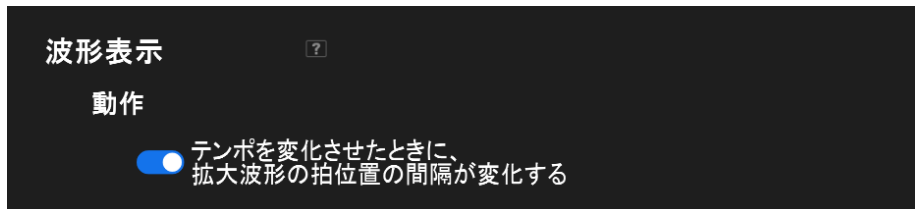
STEP2. コントロール信号を読み取るスレッシュホルドを調整します。

Noise Level のスライダーを動かして調整します。スライダーを右に移動するほどターンテーブルの振動によって発生するノイズが強くなり、左に移動するほどスクラッチ操作に対する精度が向上します。

コントロール信号の表示サイズは[Size]スライダーを動かすと調整できます。

*円のサイズが小さい場合に拡大表示できます。

4.4 波形表示



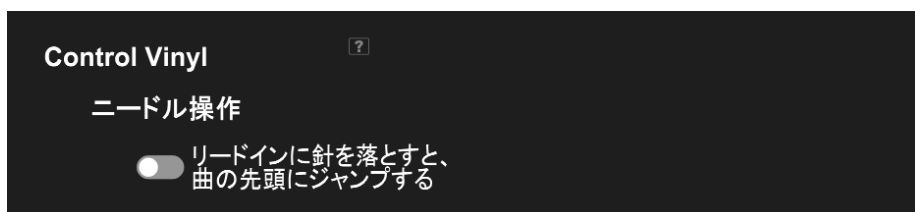
[テンポを変化させたときに、拡大波形の拍位置の間隔が変化する]をオンに設定すると、デッキのテンポを変化させたときに拡大波形の拍位置の間隔が変化します。（スクロールスピードは一定になります。）

[テンポを変化させたときに、拡大波形の拍位置の間隔が変化する]をオフに設定すると、デッキのテンポを変化させたときに拡大波形のスクロールスピードが変化します。（拍位置の間隔は一定になります。）

この設定は 4.1 [DVS 機能を有効にする]をオンに設定しているときのみ有効になります。

（[DVS 機能を有効にする]がオフに設定されているときは、常に拡大波形の拍位置の間隔が変化します。）

4.5 Control Vinyl



RELATIVE モードのときに有効な機能です。

[リードインに針を落とすと、曲の先頭にジャンプする]をオンに設定すると、Control Vinyl のリードインに針を落としたときに、曲の先頭にジャンプします。

（コントロール信号の WAV ファイルをお使いの場合は、プレーヤーの再生位置を WAV ファイルの先頭に移動すると、曲の先頭にジャンプします。）

以上で DVS のセットアップは完了です。

-
- ・ rekordbox™ は、AlphaTheata 株式会社の商標または登録商標です。
 - ・ その他記載されている商品名、技術名および会社名などは、各社の商標または登録商標です。